ＰＨＰ新書「地震予報」読者の皆様へ
No.１７７８ 長期継続特殊前兆
原稿校了後の前兆変化について

続報 No.００１
2012.11/13（火） 11:00 JST

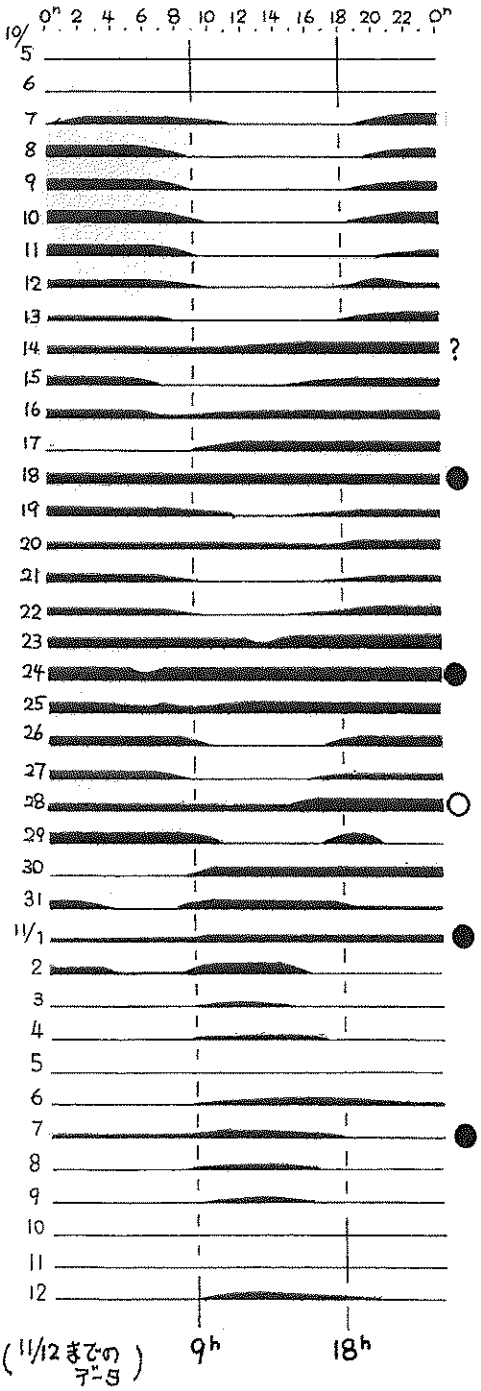
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

ＰＨＰ新書「地震予報」をお読みくださりましたこと、心より厚く御礼申し上げます。新書の中で紹介致しましたNo1778長期継続前兆について、簡単ではありますが、その後の変化について続報させて戴きます。更新間隔は不定期となりますが、大きな変化が観測された場合や、ＰＨＰ新書「地震予報」に書いた推定内容に大きな修正が必要となった場合等には、本紙の様な形で更新させて戴きます。何卒宜しくお願い申し上げます。

串田嘉男

ＣＨ７に基線幅増大ＢＴ出現

原稿校了後の10月07日から、八ヶ岳南麓天文台のCH7 観測装置に基線幅増大ＢＴ前兆変動出現が観測されだしました。下図は日々のCH7-BTの変化スケッチ図です。一日が横軸一本。左端が00時、中央が昼12時、右端が00時として表示。



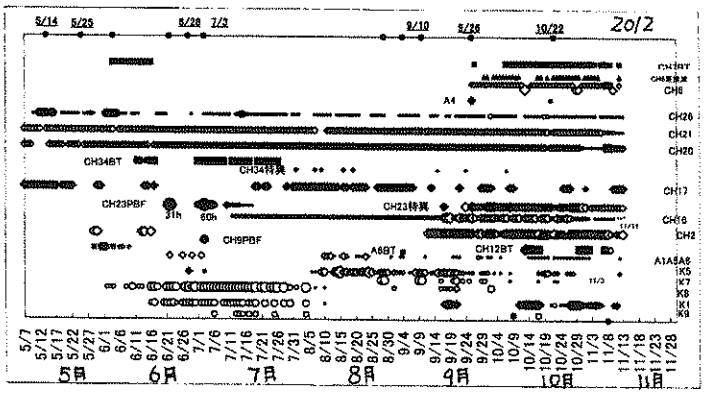
左図に午前９時と午後６時に縦線を入れました。日々のBTの出現、終息の時間帯が二本の縦線とほぼ一致していると認識できます。

「地震予報」の中でも紹介致しましたが、このどちらかの時間帯付近が地震発生時刻となる可能性が高いと思われます。

どちらかと言うと午前９時頃の時間帯の方が揃って見えますので、午後６時前後より、午前９時前後の時間帯の方が発生推定時刻としての可能性は若干高いようにも見えます。但し、確定は困難です。

◆発生推定時刻
ＰＨＰ新書内記述と変わらず、
午前９時±２瞬
又は
午後６時±２瞬
の可能性有。
（前震がある場合は異なる）

前兆出現モニター数の変化



No1778前兆 2012年５月初旬以降の前兆出現状況図

上図は、No1778前兆認識の地震前兆出現観測装置の装置（チャンネル）毎の前兆出現状況を示した図です。各ドットが前兆出現を示しています。詳しく解説するスペースが無いため、図は小さくして掲載しています。ご了承下さい。

これを見ましても、本年５月頃と比較して９月下旬以降の前兆数が多くなっていることがお判り戴けると思います。新書にも書きました、５月１４日、５月２５日の極大の他、６月２８日、７月３日の極大も見えます。その後、小ピーク認識できる日もありますが、９月下旬以降の前兆出現観測装置数増加の中で、１０月２２日±が、この多数前兆の山の極大である可能性があります。

１０月中の前兆出現観測装置数は１７でしたが、１１月１３日現在の前兆出現観測装置数は１２となり、減少しております。

また現在継続中の前兆も、前兆レベルが下がってきている観測装置もあり、多数の前兆が出現した山（１０月２２日前後が極大認識）が静穏傾向となっていると認識されます。

新書の中にも記しました前兆終息ですが、その後の極大にも関係して出現しているものも多く、明確な終息は現状確認できません。但しCH16が、１１月２日と１１月１１日に２段階で前兆レベルが大きく減少変化しています。これが５月２５日と６月２８日の極大に対する終息変化だとすれば、新書に書いた時期と一致することになります。

左図のCH7-BTの周期性については、10月14日にも小ピーク が見えますが、左図の●印を周期性小ピーク 認識した場合は、○印の10月28日が周期性から外れる小ピーク となります。平均周期は6.7日。10/28＋(6.7×9)＝12月27日±3 が計算できます。新書にも記しました12月29日±時期に近い値ですが、今後の変化を見たいと考えます。現状、前兆は継続しておりますので、少なくとも12月25日以前に対応地震が発生しないことだけは、現状言えます。

推定領域、推定規模につきましては、新書記載内容を大きく変える根拠前兆はありませんので、修正事項はありません。発生時期のみです。12月中旬過ぎ段階で前兆顕著継続の場合は、発生は来年以降となりますが、12月下旬迄に前兆終息の場合は新書記載時期に発生の可能性。今後を観測解析し、続報させて戴きます。

C) Copyright 2012 YSBO 八ヶ岳南麓天文台